

13 今後必要な施策等について

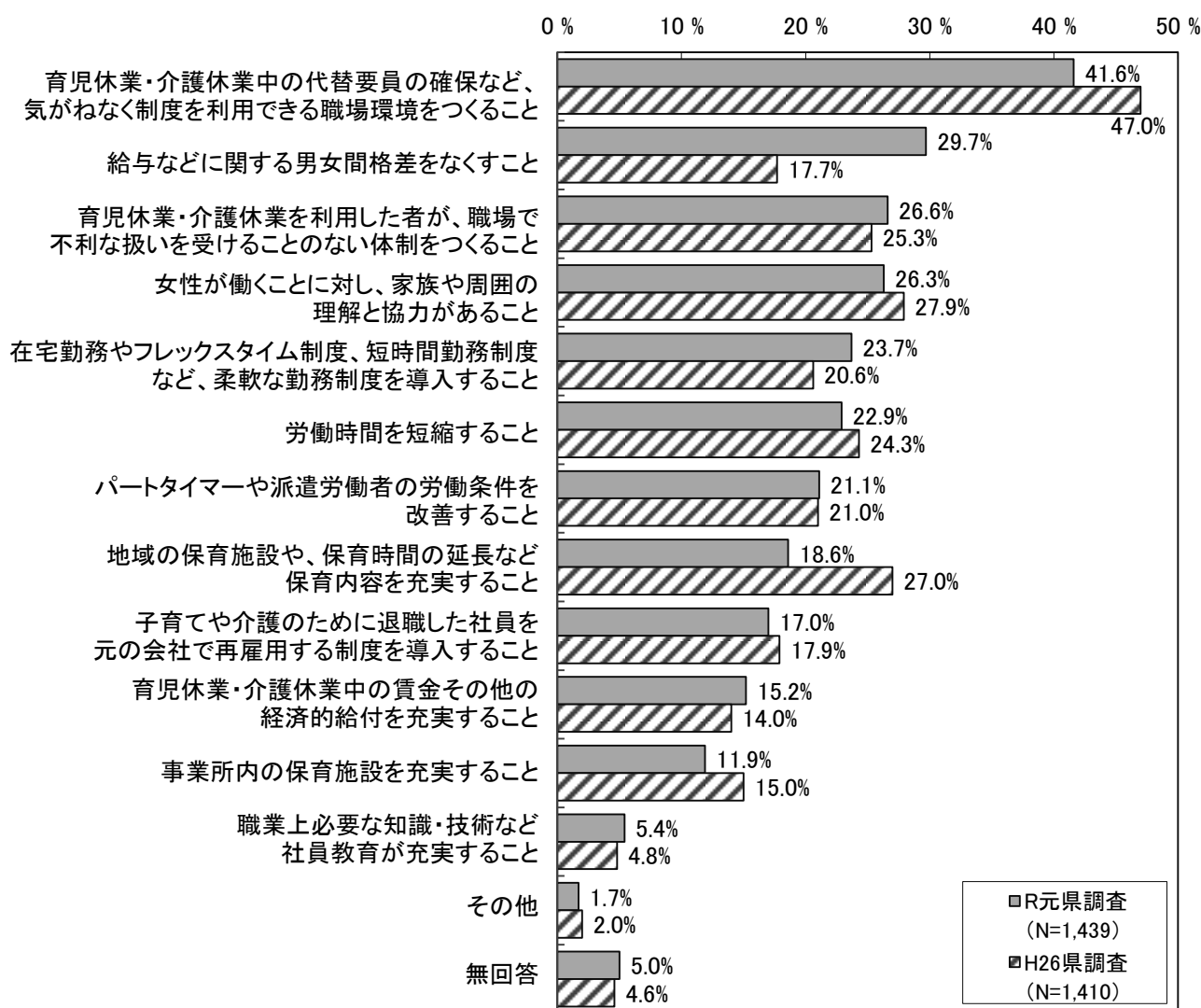
(1) 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと

問 11-1 男女がともに、仕事と家庭の両立を実現するために必要なことは何だと思えますか。
(〇は3つまで)

男女がともに、仕事と家庭の両立を実現するために必要なことは、「育児休業・介護休業中の代替要員の確保など、気がねなく制度を利用できる職場環境をつくること」の割合が最も高く 41.6%で、次いで「給与などに関する男女間格差をなくすこと」(29.7%)、「育児休業・介護休業を利用した者が、職場で不利な扱いを受けることのない体制をつくること」(26.6%) となっている。

前回調査と比較すると、「給与などに関する男女間格差をなくすこと」の割合 (29.7%) が 12.0 ポイント高くなっている。

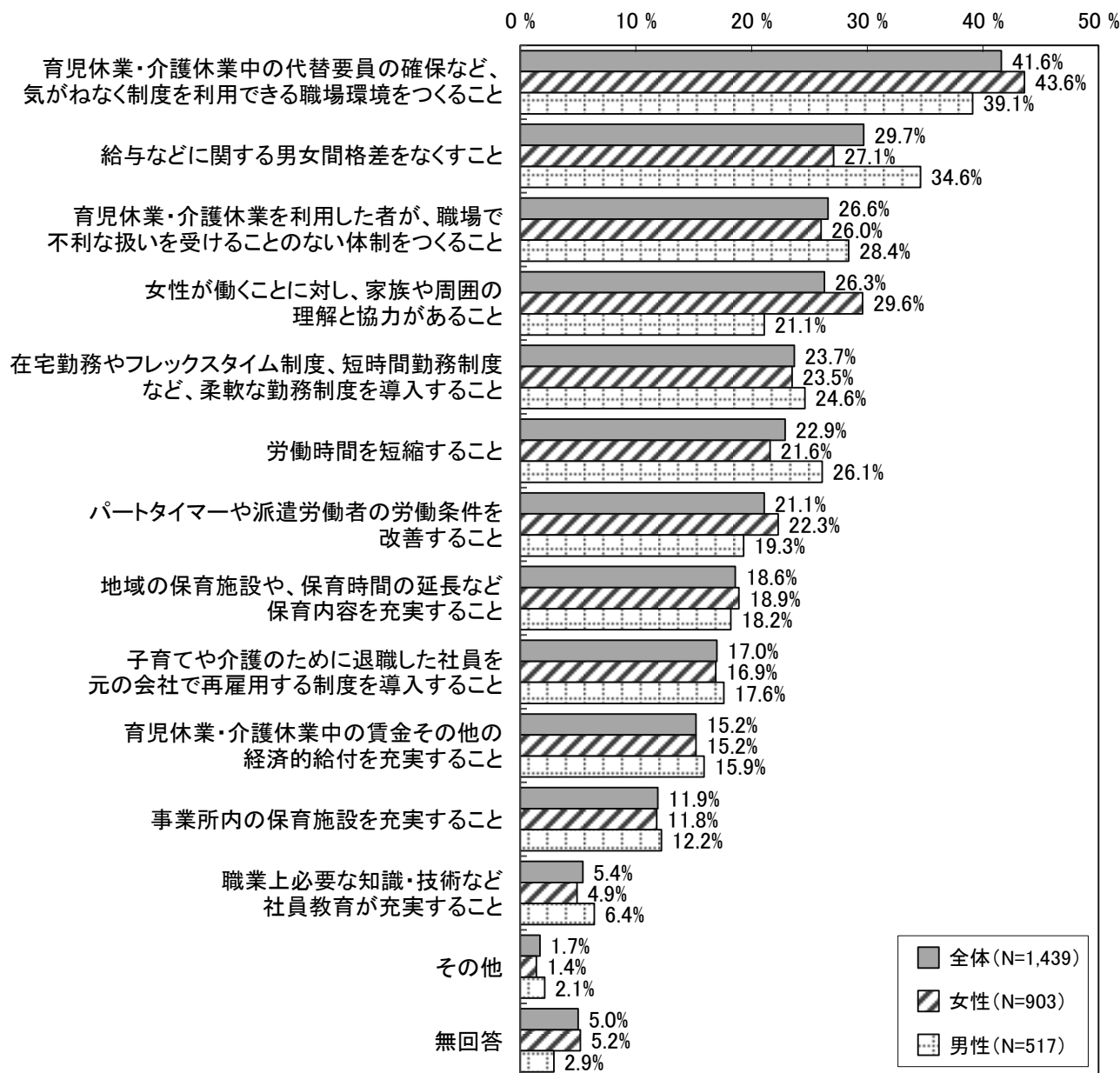
図表 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと (前回比較)



【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて「女性が働くことに対し、家族や周囲の理解と協力があること」の割合（29.6%）が8.5ポイント高く、「給与などに関する男女間格差をなくすこと」の割合（34.6%）が7.5ポイント低くなっている。

図表 男女がともに仕事と家庭の両立を実現するために必要なこと（男女別）



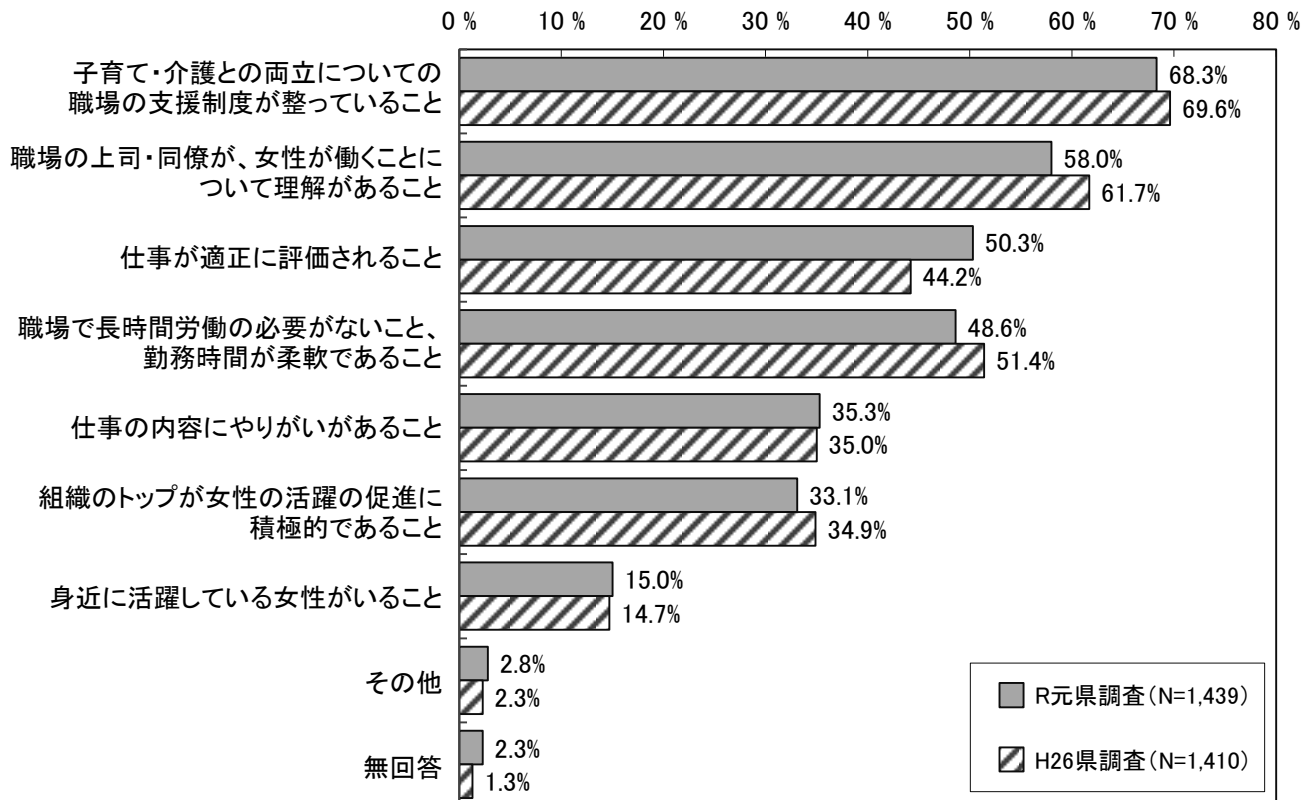
(2) 女性が職場で活躍するために必要なこと

問 11-2 女性が職場で活躍するために必要なことは何だと思えますか。(〇はいくつでも)

女性が職場で活躍するために必要なことは、「子育て・介護との両立についての職場の支援制度が整っていること」の割合が 68.3%で最も高く、次いで「職場の上司・同僚が、女性が働くことについて理解があること」(58.0%)、「仕事が適正に評価されること」(50.3%)となっている。

前回調査と比較すると、「仕事が適正に評価されること」の割合(50.3%)が前回から 6.1 ポイント高くなっている。

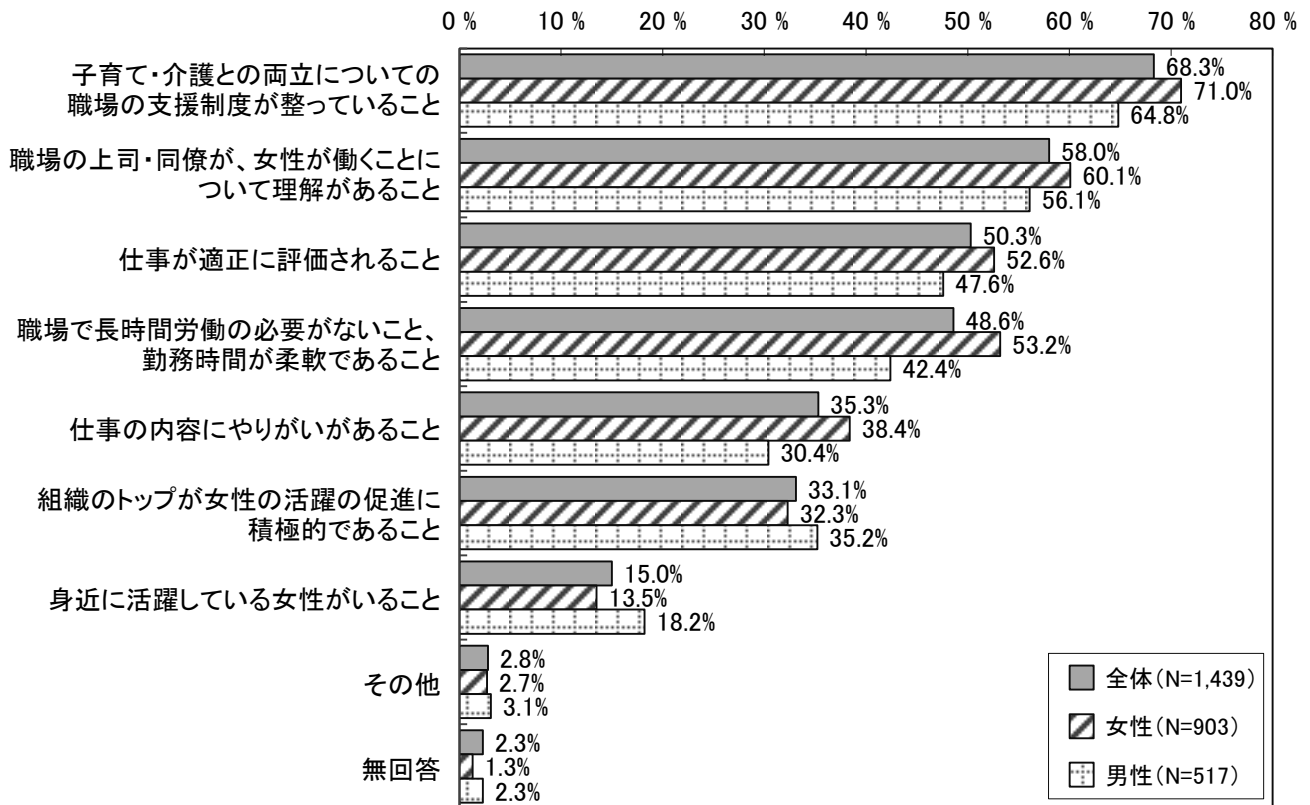
図表 女性が職場で活躍するために必要なこと(複数回答)



【男女別】

男女別にみると、女性は男性に比べて「職場で長時間労働の必要がないこと、勤務時間が柔軟であること」の割合（53.2%）が10.8ポイント高く、そのほか「子育て・介護との両立についての職場の支援制度が整っていること」（71.0%）、「仕事が適正に評価されること」（52.6%）、「仕事の内容にやりがいがあること」（38.4%）なども割合が高くなっている。

図表 女性の職場での活躍に必要なこと（男女別）



(3) 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れるべきこと

問 11-3 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後、行政はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

今後行政が力を入れるべきことは、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が57.3%で最も高く、次いで「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」(48.4%)、「保育の施設・サービスや放課後児童クラブを充実する」(47.0%)となっている。

図表 男女がともに活躍できる奈良県にするために、今後行政が力を入れるべきこと (複数回答)

